

おもいっすり

川あそびキャンプ!!

「あと、少ししか時間ないよー!!」1泊2日の2日目の、最後の最後。「わたし、やってみたいことがあるの」と、年長さん。最後と聞いて、心に貯金していたやってみようと思っていることを、「やるぞ!!」と決めたようです。まずは、小滝登り。さっきは、1年生のメンバーに、手を上からさしのべてもらい登りましたが、自分の力だけで登りたかったよう。自分の力で流れを登り切り、そしてその次は飛び込み!小岩から、ドキドキしながら、おもいきってジャンプ!「こわかったけど、楽しかった!!」と満面の顔。1泊2日の中で、川遊びも、キャンプ生活も、勇気を持って、たくさんのことにおもいきって挑戦する過程がたくさんあった子どもたちでした。



▲勇気を持って、挑戦。何も、飛び込みのような派手なことだけでなく、「自分たちで、ごはんをうまく炊いてみるんだ」「テントでお泊りするんだ」。全て、小さな子どもたちには、大きな勇気が必要。子ども時代の「ぼうけん」です。



チャレンジ隊2「シャワークライミング!」～初夏の沢を、あえて水流を遡り、沢登り。時に、理屈抜きで、あえてやってみることはとても大切。あえてやってみることで、自分の見える景色は大きく変わります。

あどベンデキタ?!

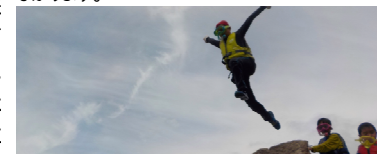
まだまだ暑い日が続きます。お体、どうぞご自愛下さい。

ふくい 海あそびキャンプ!

丹念に、丹念に、自分たち釣ってきたお魚を焼く子どもたち。そして、自分たちの獲ってきた貝を地獄焼き、煮沸にする子どもたち。その横では、お米のお鍋から出る湯気を見つめ、弱火のタイミングを計る子どもたち。そして、おかずの味見を丹念に繰り返す子どもたち。本当に、一生懸命。この日の食事は、すべて全て子どもたちが作りました。お米は3つのお鍋全て最高の出来!おかずの味付けも丁度よい出来映え。お魚、貝はは、自分たちで、さばいて、串に刺して焼いたり、網で焼いたり。大人からすれば毎日の生活のひとつ。でも、子ども達には、自分達で「生きる」ための瞬間のよう。経験に差はあれど、それぞれに、新たな世界の拡がり。と、「ヤッパ!」「やれた!」「がんばれた!!」という自分の拡がりがあった食事作りでした。



▲釣った魚を、自分でさばいて、塩をふり、じっくり串焼きに。実はこれも子ども時代の「ぼうけん」。生きることに直結する行動は、何だかたくましくなってきた「自分をいいぞ」と想えることにつながります。



▲実は、季節はずれの秋雨前線停滞で、常に「活動ができなくなるんじゃないか」という心配に追われた3日間。海遊びも、予定を繰り上げやった釣りも、子ども達は、「今しかない!」とトップギア。でも心配、予定変更が影響して何だか集中出来ない様子。でも、この食事作りは、とても集中できた瞬間でした。



ミドルコース2「はじめての海釣りチャレンジ!!」～釣れた瞬間の心の揺れ。心揺れる気持ちだが、子どもたちの明日への、未来への前向きな活力につながってほしいと想っています。

みなさまに、寄付頂きました、活動用衣類や靴。夏休みは、大活躍致しました。引き続き、安全に活動するために、忘れた方や、活動中に破損してしまった方、着替えが濡れてしまった等の方のために、貸し出し用として活用させていただきます。皆様の平素よりのご協力、ご支援、誠にありがとうございます。あらためて、御礼申し上げます。



Adventure Kids School

子どものための自然体験学校「アドベンチャーキッズスクール」活動報告レポート

Report "adven Dekita?!" - アドベン デキタ?!

adven Dekita



サマーキャンプ「いかだキャンプ!」～はなれ小島へ出航!～

2019.Aug

サマーキャンプ活動報告

いかだキャンプ!

浮力になるタイヤチューブと、いかだ板をロープで結びつけ、完成した子どもたちのいかだは、海の静かな内湾にうかがい離れ小島に向けて出航しました。遠くに見える小島。果たして本当に行くつもりなのか?という大人の疑念をよそに、当の子どもたちは本気も本気。「みーぎ、ひだり!」と息を合わせパドルをこげばいかだは海をグンと進む。遠くに見える島が近づいてくる様は本当にワクワクするもの。雨に見舞われながらも、小島までいかだで海を渡りきり、しばしの無人小島を楽しみ、はたまたいかだで海を渡って帰っていった、冒険家の子ども達なのでした。



▲大人になると、そんなことできないだろう、そこまではさすがに無理だろう、と頭で考えてしまいがち。でも、子ども達は、そんなこと全く考えません。やってみないと分からないこともあるけれど、そのやっている過程が、子ども達の大冒険なんです。世界を拓き、自分を拓く。そしてそんな自分もいかなどと想ってほしい。

川あそびキャンプ!!

2泊3日の2日目。小さな橋の川で遊んでいる子どもたちの写真を撮ろうとしても、なかなか写真が撮れません。子どもたちは水に顔をつけて、上げないのです。この日、「やってみよう!」とはじめた、川の中での原始釣り。小枝を拾い、そこに短い糸と針、おもりをつけて、川の中をのぞき、魚がエサを食べにくる様を見ながら、釣り上げる釣りなのです。はじめは誰も釣れません。エサには寄るけれども、どうも、針には掛かりません。しかし、粘り強い子どもたち。特に小さな1年生、2年生のみんな。自分でやってみよう!と想ったことには、とてつもない粘りと、力を発揮するのです。顔を全く水から上げずに、お魚さんの様子をじっと観察し、子どもたちそれぞれにある仮定が生まれます。「こうしたら、針に掛かるのでは??」。試してみても失敗。しかし、その繰り返しがついに!「もう、わかったわー!」。そこから、1年生、2年生、バンバンお魚、テナガエビを釣り上げていったのでした。



▲ 難いことではなく、自分がやってみよう!と想うこと、それを実際に、自分で動いてやってみること。そうすると、自分の見える景色はおのずと変わります。自分が動けば、景色は変わる。その、大変な勇気と、努力こそが、実は、自然遊びや、子ども時代のほうなん。その過程が大切。

山!!川!!海!!ぼうけんキャンプ!

3泊4日のこのキャンプの2日目は、山の日。登山に挑戦です。今年は、登山口が海の真ん前にあり海拔ゼロメートル、山頂が764.1メートルの山に挑戦しました。ひたすら続く登り。行けども、行けども、頂上は見えてきません。子どもたちが感覚的に(もう、そろそろ、頂上かなあ〜)と予測する3時間過ぎ、実は、まだ行程の半分にも満たない距離。頑張り抜く気持ちと、何でもこんな山のぼらせんねん!という気持ちが出てきましたが、それでもあきらめず、764.1メートルの山頂に到着!「ヤッター!」ではなく、「エーン、エーン、おうちへ帰りたいよー」と泣き出す女の子達。疲れすぎて、心も体もオーバーヒートし、ホームシックになってしまいました。互い「わかるよー。もうすぐキャンプ終わっておうちへ帰れるから一緒にがんばろ。」と励まし合い、何とか下山を開始。頑張る、男子、女子。途中の山水を飲める場所で、たくさん水分補給をして、無事、海拔0メートルの登山口まで歩ききることができました。「こんなやるの、一度だけでええわー」。そうです。大きなチャレンジは一度だっていいのです。でも、その一度をやりきれた事実はとても大切。二度とやらないと、思っても、でも、それを一度やり切れた自分を好きになってほしい。頑張れた自分をいいぞと、誇ってほしい。既に、やり切った自分は、やる前の自分と違うのですから。

海つりキャンプ!!

「何だー! この魚!!」。まるで、ハマチ??、カツオ??、マグロ??、カンパチ??ブリ?! 大人、子どもふくめてみんなで大あわてで大騒ぎ。サビキ釣りの針に何ともはや、サビキ釣りでは見慣れない、でも、魚屋さんでみたことあるような大きなお魚がついているではありませんか! 釣った本人は意外に冷静「なんじゃ、これ?」。正体は、ツバス。ブリの若魚でした。サビキの針で釣れていた豆あじを食べに来たのではと、みんなで思案。「すごい!!」と素直に賞賛の子どもたち。うらやむでもなく、嫉妬するでもなく、その姿を自分のことのように感じているところが、子どもたちの素敵なところでした。それも、そのはず。アジに、サバ、スズメダイ、グレ(メジナ)に、カサゴ、ウミタナゴ、キュウセン(ペラ)、ナベカ。2日間、サビキに、五目釣りにも、釣りまくったのですから!



▲ 親元から離れてお泊り、一歩、外の世界に踏み出すのは大変だけれども、その代わりいつもと違う世界が待っています。あせらず、少しずつ、ひとつずつ、自分と、その世界を拓いていってほしい。そして、そんな自分を好きになってほしい。テントでのお泊り、ごはん作り、がなべれた。大きな空に、二重に掛かる虹も、みんなで見られた。そして、魚も、たくさん釣れた子ども達でした。

おもいっきり

海あそび!

みんなが、遠浅の干潟の海の沖へ遊びに出かける中、「ぼく、全員分の貝みそ汁作ってあげたい」。ひとりの子どもが砂地に残って、コツコツハマグリやアサリを獲ります。どこからか、それを聞きつけたひとり、ふたりの子どもが遠くから「貝募金します!」と自分の獲った貝を持ってきて、提供してくれます。そして、また沖へ出かけ、貝を獲ってきます。知らない間に、あちらこちらでも、貝募金しますと、みんなに拡がり、みんなで、全員分の貝を獲って、夜は貝たくさん貝みそ汁に! 貝たくさん貝みそ汁は大人気で、皆でおいしくいただきました。



▲ 大人が言い出せば、こうはならない。自然の中で、子ども達の、心の中から生まれるもの。子ども同士で、なぜか響く。それも、子ども時代の素晴らしい経験のように想えます。2日目は、釣りを頑張りましたが、釣果はなかなか不調でした。残念。



▲ 小2〜中2までいた今年のメンバー。どの年齢のみんなも、よく頑張りました。歯をくいしばって、弱音を最後まで吐けなかった2年生男子たちも、なかなかのもの。そんな自分のかくされた力を知っていくことはとても大切。